

英語教育推進事業

英語教育の流れ

	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
全国学力テスト	(小6)	(中1)	(中2)	学テ実施(中3)			学テ実施
学習指導要領	改訂	周知	← 移行措置 →		小学校実施	中学校実施	

国の動向

【新学習指導要領】(平成32年度～)

- ◆小3・4年生 外国語活動年間35時間
→担任がALT等を一層積極的に活用し指導
- ◆小5・6年生 外国語科年間70時間
→担任の専門性を高め、併せて**専科指導教員を活用、ALT等を一層積極的に活用**

【NSの配置】

文部科学省の「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」(平成23年)提言3
「教育委員会は、ALTの雇用・契約形態の見直し等適切な対応を行う。」

【全国学力・学習状況調査】

これまでの中学校国語・数学の調査に加え、英語の「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の調査が実施される。特に、「話すこと」においては、教員と生徒による対面調査が予定されている。

【中学生・教員の英語力】

国の「第2期教育振興基本計画」(平成25年度～平成29年度)

中学3年生卒業時：
英検3級程度 50%取得
英語科教員：
英検準1級程度 50%取得

本市の現状

【新学習指導要領の実施に向けて】

- ◆小学校の課題
 - ・3・4年生外国語活動、5・6年生外国語科を指導できる教員の育成
 - ・外国語活動の時間の確保
 - ・外国語活動のカリキュラム開発
- ◆中学校の課題
 - ・アクティブラーニングの推進
 - ・「CAN-DOリスト」による指導目標の明確化

【NSの配置】

- ◆これまで、9月から3月まで小中に配置
- ◆課題
 - ・1学期に配置されていない。
 - ・中3チャレンジテストのリスニングテスト対応を充実させる必要がある。
 - ・児童生徒が英語に触れる機会をさらに充実させる。

【「学びの診断」分析結果】

- ◆中1から中2にかけて出現する下位層の増加傾向に歯止めをかける必要がある。



【中学生・教員の英語力】

文部科学省の「平成27年度英語教育実施状況調査」結果より

堺市
◆中学3年生の英検3級取得率 **6.2%(国 18.9%)**
◆英語科教員の英検準1級以上取得率 **29.6%(国 30.2%)**

今後の施策

【ピクチャーブック事業(新)】 (2,790,000円)

- ◆児童の英語に対する興味関心を喚起するため学校図書館に英語コーナーを整備する。
- ◆小学校の学校図書館に英語の絵本を配布する。

【英語教育推進モデル校(新)】 (825,000円)

- ◆6中学校区で中学校教員を小学校の専科にする。
- ◆小3以上の英語教育7年間のモデルカリキュラムを作成する。

【NSの配置(拡)】(141,336,000円) (債務負担 81,000,000円)

- ◆1年間のNS配置(9月～7月)
年間を通して、児童生徒が英語に触れる機会を提供し、英語に関する興味関心や英語を使うことへの自信をもたせる。
- ◆全国学力・学習状況調査に向けて全校で、「聞くこと」「話すこと」が充実した授業を展開するために、NSを活用した授業を増やす。



【教員研修(拡)】 (1,910,000円)

- ◆小学校
 - ・外国語活動研修の拡充
 - ・教員の指導方法や英語力向上
- ◆中学校
 - ・指導方法の工夫改善と教員の英語力向上に向けた研修をさらに充実

【英語検定奨励事業(新)】(1,296,000円)

- ◆英検3級の受験者数を増やすため、合格者に対して検定料を奨励する。
- ◆中学校教員で準1級合格者に対して、検定料を奨励する。